

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和元年度 第2回教育に関する事務の点検・評価委員会
事務局（担当課）		庶務課
開催日時		令和2年1月15日（水）午後2時～午後4時30分
開催場所		豊島区役所 教育委員会室（本庁舎8階）
議 題		<p>（1）評価対象事業のヒアリング及び質疑応答</p> <p>① ICTを活用した学習活動の推進（補足）</p> <p>② いじめの防止対策の推進</p> <p>③ 小・中学校の移動教室について</p> <p>④ 子どもスキップ事業</p> <p>（2）その他</p>
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	工藤豊太 細谷美明 福元保子（敬称略）
	そ の 他	教育長、教育部長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、指導課長、教育センター長、統括指導主事
	事 務 局	庶務課長、教育政策係長、同主事、学務課学校運営係長、放課後対策課児童支援係長

審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
工藤委員長 副島庶務課長 工藤委員長	<p>それでは、ただ今より、「第2回教育に関する事務の点検・評価委員会」を開会いたします。</p> <p>まず、事務局より、本日の傍聴について報告をお願いいたします。</p> <p>本日の傍聴希望者はありません。</p> <p>もし傍聴者がいる場合は、速やかに室内に入れるようにしてください。</p> <p>お願いいたします。</p>
金子教育長 工藤委員長	<p>それでは、本年1月5日付けで、金子新教育長が就任されましたので、ご挨拶をいただきたいと思えます。教育長、よろしくをお願いいたします。</p> <p>【教育長挨拶】</p> <p>教育長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事に入ります。議事の第1、前回、審議をした「ICTを活用した学習活動の推進」について、事務局から補足の説明があります。</p> <p>副島課長、説明をお願いします。</p>
副島庶務課長 工藤委員長	<p>【資料1「ICTを活用した学習活動の推進（補足）」の説明】</p> <p>副島課長、ありがとうございました。細谷委員、ご提示いただいた資料に補足の説明をお願いできますでしょうか。</p>
細谷委員 工藤委員長	<p>はい、先ほど庶務課長の方からご説明ありましたとおり、少しデータとしては古いのですが、恐らくこういう類の、学力調査と相関関係を見るような資料は今ほとんどないものですから、非常に貴重な資料だと思います。この中にあるように、やはり使う頻度が高い教員ほど関心が高いわけです。でもそれは、台数が多ければ多いほど頻度が高くなるはずであって、やはり台数との関係、それから子供の関心度、理解度、そして思考力の関係がありますが、基本的に台数の関係がまず一つ大きいと思います。私の方もできる限りデータを提供しながら、今後の区のいろいろな事業にお役立ていただけるとありがたいと思えます。以上です。</p>
工藤委員長 福元委員	<p>細谷委員、ありがとうございました。</p> <p>では、福元委員、補足説明がありました。ご質問をお願いいたします。</p> <p>今回ご提示いただきました資料の中で、先ほど副島課長からご説明いただきました平成29年度の結果についてなのですが、こちらは平成30年度にタブレットパソコンが3人に1台に増加以前の資料ということだと思いますので、こちらでは随分児童の興味関心が高いということが分かるのですが、令和2年度再調査をしていただくということで、先ほど細谷委員からお話がありましたように、台数との相関関係の資料が期待できるのかなという風に感じております。</p> <p>また、校務支援システムについて、先生方の時間外の勤務減少ということが示されている点について、先生方の負担が減ることで、児童生徒と触れ合っていたく時間が増えたという相関関係があることがとても良</p>

<p>工藤委員長</p>	<p>かったなと思いました。ありがとうございます。</p> <p>福元委員、ありがとうございました。</p> <p>それでは私の方から何点か質問させてください。</p> <p>副島課長の方から ICT 環境整備経費のご説明がありました。平成 27 年度の経費から、平成 31 年度のところは、かなりの経費の上がり方です。この辺りの部分については、当然機器の改修、変更等の経費が付いたと思うのですが、実際学校の現場では、これだけの経費を教育委員会が頑張っているのだということをご認識あると思いますか。</p>
<p>副島庶務課長</p>	<p>平成 31 年度につきましては、情報セキュリティ対策も含めて、目に見えない部分の対策をやっております。情報漏洩を防ぐために、二要素認証を入れるだとか、目に見えづらい部分をやっていることもあるので、先生方にとってはあまり実感としてないかもしれません。というのは、タブレットパソコンが 1 人 1 台になったわけではないので、そういった意味でも、弱いかもしれません。ただ、校長会、副校長会で、必ずこういった予算についてのご説明を申し上げ、教育委員会の方向性についてもご理解いただいていると思いますので、順次進めていることはご理解いただいていると思います。</p>
<p>工藤委員長</p>	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>学校というのは、与えられるのが当たり前という風潮があり、私も実際現場にいる時は、なぜ教育委員会はやってくれないのかと、文句を言うのが最終的には教育委員会ということがありました。やはり、教育委員会と学校は両輪の車になりながら頑張っていく、お互いを認め合う、その中でどう工夫するかという環境を作っていただきたいなと思います。特に、これから機器は下がることはないので、お金を使いたい放題使っていけない状況があると思うので、今の質問になりました。ありがとうございました。</p>
<p>副島庶務課長</p>	<p>それでは、他の委員の皆様、他に何か質問等ありますでしょうか。</p> <p>追加でよろしいでしょうか。</p> <p>【追加資料「平成 30 年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査確定値公表について（速報値）H31.3.1 現在」の説明】</p>
<p>工藤委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>前回、ICT の活用の状況の中で、千川中学校の「ミライシード」や「ムーブノート」を説明いただき、他の学校の状況の資料についても問い合わせをしたところ、事務局に今回資料を多く出していただき、こういった迅速な対応は大いに評価できると思っております。どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、議事の第 2、「いじめ防止対策の推進」について、佐藤課長、説明をお願いいたします。</p>
<p>佐藤指導課長 工藤委員長</p>	<p>【資料 2 「いじめ防止対策の推進」の説明】</p> <p>佐藤課長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、今の説明に対して、各委員の方からご質問いただければと思</p>

<p>福元委員</p>	<p>います。では、福元委員、よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。先ほどご説明にありました、hyper-QU が平成29年度から3年生から調査されているということで、こちらの結果のまとめの例を見ますと、このお子さんに支援が必要だとか、個別的に分かってくる調査だなと感じるのですが、お伺いしたところ年度後半からの調査ということでしたから、例えば2年生からとかさらに下の学年を対象にすることは指導上有効なのではないかと考えたのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>佐藤指導課長</p>	<p>Hyper-QU は1年生から用意されているものですので、可能性としてはあるのかなというところを改めて検証しているような状況でございます。スタートとしては最初高学年からというところでしたが、3年生になぜ下げたかという、やはり子供たちが10歳の壁と言われるように、自我がしっかりと出てきて、いわゆる集団の捉え方が変わる最初の起点のところでございますので、そこから調査することが大事だろうということで、平成29年度に変えたという経緯がございます。今後子供たちの様子を見た時には、もっと下の学年から調査する必要性があるのかということは、今後検討していきたいと思っております。</p>
<p>工藤委員長 福元委員 工藤委員長 細谷委員</p>	<p>福元委員、よろしいですか。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>では、細谷委員、よろしくお願いいたします。</p> <p>このhyper-QUは年2回実施とありますが、年3回できるのですが、問題は、これは単に実態調査であって、その結果を受けてその後どういう指導をするかが一番肝心なところで、学校がこれを受けてこういう活用したあるいはこういう指導したら、こういう成果があったというデータはないのでしょうか。</p>
<p>佐藤指導課長</p>	<p>本日は該当の資料をご用意できておらず申し訳ございません。学力調査も本区は同じように図書文化社を使っておりまして、年2回やる中で年1回目にやった子供たちのhyper-QUの調査と学力調査のところで、リンクさせながらクロス分析したものを学校の方で持っています。学校はそれに基づいて、授業改善推進プランを立案して、夏以降、いわゆる授業として子供たちとの人間関係をどうやって構築していったらいいのかということを授業改善推進プランに活かしているという状況でございます。</p>
<p>細谷委員</p>	<p>資料の2枚目の方の、自己肯定感・自己有用感のデータですが、年々上がっているの、余計気になっています。hyper-QU を使って何かやったのだから、だからこのように上がっているのだから。肝心なデータの真ん中の部分がないので、ちょっとそれはおかしくないですか、という指摘です。次回までにあれば、データを提示いただきたいです。</p> <p>もう一つついでに言えば、hyper-QU でいろいろなものが見えるのですが、他にもいじめに関する調査はやってらっしゃるのでしょうか。</p>
<p>佐藤指導課長</p>	<p>やっております。東京都が6月と11月に実施しているふれあい月間</p>

	<p>に加えて、区独自でもう1回2月にいじめに対する調査というのをやっております。結局、区としては年3回、hyper-QU の他にいじめに関する調査を実施しております。</p>
細谷委員	<p>次の質問です。指導課長に直接お聞きしたいのですが、自己肯定感を育む学級指導というのは、例えば中学校はどのようなものが有効だと思っておりますか。</p>
佐藤指導課長	<p>まず学級の中で、人間関係作りということで、それぞれの学級の学級作りを取り組んでいたり、それから特別活動の中で、子供たちが縦との関係ということで生徒会を実施したり、また部活動のところでは、学級だけではなく異集団の中で異学年との人間関係作りを各中学校の中では実施しているという状況でございます。そこで改めて子供たちが人間関係を磨かれたところが、学級の中で考え方や見方を変えて、中学校の中で人間関係の構築というところに繋げていると私の方で認識しております。</p>
細谷委員	<p>学校行事はそういうものを目的としており、すごく大事なことだと思います。その他に、学級単位でできる人間関係作りのいろいろなプログラムがあります。例えば、アサーショントレーニング、あるいは、子供たちが自己を切り替えるロールレタリングというのが、文部科学省の学習指導要領にも書いてあるものなのですが、そういうものを学校に、1つの指導事例集として配布して、どんどん広げていっていただきたいと思えます。人間関係というのは複雑なものであり、細かいところがありますので、そういった細かいものをフォローするために、今申し上げたトレーニングがかなり効果的だと思います。資料の方は私の方でいくらでもご提供したいと思います。ぜひその辺のご検討をお願いしたいと思います。</p>
工藤委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは私の方から何点か質問させてください。指導課から「校内暴力・いじめ・不登校の件数」の件で資料が出されていますが、先ほど指導課長の方から、これは文部科学省からの資料とのことでしたが、豊島区の資料は当然ありますか。</p>
佐藤指導課長	<p>説明が不十分でした。これは豊島区の数字でございます。</p>
工藤委員長	<p>そうですか。そうしますと、資料の下の「(文部科学省)による」とは、「3 不登校児童・生徒数の推移」に対してだけのものでしょうか。</p>
佐藤指導課長	<p>大変失礼いたしました。問題行動調査そのものは文部科学省がやっておりますので、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」が文部科学省の実施によるもの、ということで表記をさせていただきました。その中で、質問項目のなかで、「暴力行為の状況」「いじめの認知件数と解消件数」「不登校児童・生徒数の推移」の質問がございますので、それぞれについて書かせていただいた、ということでございます。</p>
工藤委員長	<p>一見した瞬間、文部科学省の資料を添付したのではないかなと思、この資料から豊島区の香りが全然しないです。件数からすれば全国じゃないということは分かるのですが、1件2件という件数は全国規模であり得ないですから。ですので、これは豊島区のデータなのだという記載があ</p>

佐藤指導課長	<p>るとより丁寧ではないでしょうか。</p> <p>それでは、この資料に基づいて、平成29年度に一気に486件に増加していますが、これは確か新聞でも話題になった数値かと思いますが、この辺りの認識をご説明よろしくお願いたします。</p> <p>委員長の仰るとおりでございまして、いじめの認知の捉え方がこれまででは、いじめとはどういうことかということが法で明確に書かれていたが、これまでの学校の中の習慣や慣習によって、いじめの件数をなるべく外に出さないようにということが全国的にございました。本区についても、この状況を見る限りその時は積極的に出していたと捉えていても、そうではなかったということがこの数字から見えるところがございます。子供たちがいじめの被害を訴えた時点で、しっかり校内でいじめの委員会を開いて、いじめの認知を積極的にして、その解消に向けて学校の中で組織的に対応をし、加えて、その後解消に至ったかどうかをしっかりと経過観察をした上で、子供たちを見守っていくという姿勢に変わったというところで、解消率のところを見ていただくと、同じような経緯でやっているという状況でございます。</p>
工藤委員長	<p>ありがとうございます。今のような補足的な説明が少しあると、より理解が深まるかと思いますが、課長その辺考えてみていただけますでしょうか。</p>
佐藤指導課長	<p>承知いたしました。</p>
工藤委員長	<p>あと一点、hyper-QU について、これは学校単位でアンケートを取りますので、学校に全てデータが行きます。しかし、豊島区の教育委員会としては、全ての学校のデータは持っていますよね。いかがでしょうか。</p>
佐藤指導課長	<p>持っております。</p>
工藤委員長	<p>そうしますと、豊島区全体ではどういう傾向になっているのかということの認識は、課長はおありでしょうか。</p>
佐藤指導課長	<p>全体の認識といたしましては、結果のまとめという業者の例のまとめで個々のものではないのですが、どちらかと言うと、学校生活の満足群に年度の始めから2回目に向かって増えていくというような傾向が学校全体で見えるという状況でございます。</p>
工藤委員長	<p>私がもう少し言いたかったことは、学校単位で取り組むのは当然のことなのですが、やはり教育委員会という一つの大きな枠組みの中で、豊島区の傾向はこういう風になるので、こういう風な提示ができるのではないかと、各学校よりもっと広い目で情報を提示できるのではないのでしょうか。そのためには、hyper-QU の豊島区全体の検討委員会等を立ち上げて、もし既にやってらっしゃったら大変失礼します、そういう形でもう少し高い見地から全体に促していくような、考えもあるかと思うのですが、その辺の考えを聞かせてください。</p>
佐藤指導課長	<p>委員長仰るとおりでございまして、私今年着任したのですが、豊島区の中で委員会等の立ち上げは持っておりません。一方で、少し話が逸れるかもしれませんが、実は中学校の一部の学年で、毎年ずっとではないのです</p>

	<p>が、時折その学年が集中していわゆる問題行動が起こります。ですから、学校全体の学力調査と比較して、学級集団という単位を見られるところではできていますが、なぜ小学校の時は安定していたのに、中学校にきてこの学年で時々問題行動や落ち着かない状況が発生するのか、また、小学校では3年生まで落ち着いていたのだが、急に4年生5年生になって落ち着かなくなる等、発達状況に応じてと言うけれども必ずしもそうではなくて、児童理解や生徒理解と言いますが、生活指導のやり方を区としてこれから学校にアプローチしていかなければいけないと思っていたところでございます。例えば、岩手県等では、生活指導のあり方ということで、生活指導の三要素をまとめた冊子みたいなものを作成して、先生方にこういう風に生活指導をしてくださいと、学級診断のチェックシートを委員会で発信したり、そういうものを始めている所もでございます。京都市もこの間作成していたように、私の中では見識としては持っているところでございます。これを使った何か学級運営、学級経営するにあたってのアプローチシートみたいなものを教育委員会としてこれから作っていく必要があるなど認識として持っております。実際にまだやれていないことではあります。</p>
工藤委員長	<p>ありがとうございます。要するに、この新しい教育ビジョン2019の中にも、心理検査の分析と活用と明確に書かれています。当然いじめの防止も書かれていますので、この辺はこれから指針として見ていかなければいけない部分なので、これを具体的にどういう風に学校に下りていくのか、この辺を詳細に検討することが必要かなということで、ご質問したわけでございます。</p>
細谷委員	<p>他に何か、細谷委員ございますか。</p> <p>今回、「いじめ防止対策の推進」ということですが、今日の資料の中に最後不登校のデータが出ていますが、不登校の対策についても何か予算の計画はされているのでしょうか。</p>
齊藤教育センター長	<p>本区は現在SSW (School Social Worker) を4名配置していただきまして、学校の方から要望があった際に、保護者等への支援ということで直接家庭に入ってアプローチをしております。また、不登校の子供たちにつきましては、連続で3日またはトータルで10日以上の子供につきましては、全て学校の方で登校支援シートの作成を依頼しております。これは学校の中で、担任だけが抱え込むのではなくて、生活指導主任ですとかスクールカウンセラー等も関わってもらって、見立てを作ります。不登校に至っている要因ですとか、家庭の状況ですとか、その子に関わる様々な情報をそこに全て盛り込みまして、今後の指導の後方支援、短期・中期・長期的な支援をどのように行うかということをお話して、そのシートに落とし込み、その都度何か変化があった場合は加筆をして、鍵がかかる場所で誰でも見えるような所に保管していただき、毎月、教育センターの方に提出を求めています。</p> <p>実は、今年度は不登校がかなり増えております。要因は様々ではあるの</p>

	<p>ですが、学校側も何とかしたいという思いで、特に若手の先生等は非常に丁寧にシートを作ってくださっているので、教育センターの内部でも長期欠席者対策会議というのを今年度立ち上げまして、学校から上がってきたシートを、一人一人のものをかなり細かく分析をして、こういう取り組みは今後ぜひ継続していただきたいですとか、スクールカウンセラーからの見立てをもう少し詳しく聞いた上で対応策をもう一度練ってほしい等、学校と直接やりとりをさせていただいているという現状でございます。</p> <p>ぱっと改善ということには中々繋がらないのですが、指導課とも十分連携をさせていただきながら、教育委員会全体でも取り組みをこれからも継続してやっていきたいという風に考えております。以上でございます。</p>
<p>工藤委員長 細谷委員 齊藤センター長</p>	<p>ご説明ありがとうございました。細谷委員いかがでしょうか。</p> <p>ということは、それも予算として来年度計上されているのでしょうか。</p> <p>来年度は、SSWを2名増員のお願いをさせていただいておりますので、その辺りで予算的には力を入れております。</p>
<p>細谷委員</p>	<p>追加でもう一つ質問です。前回もお話したかもしれませんが、今回、昨年10月25日に文部科学省の局長名で通知文が出ました。今までの不登校の概念というか、文部科学省の考えをかなり変えたものでした。要するに、今までの学校復帰という目的から社会的自立に切り替えていて、つまり無理して学校に行かせなくていいということをや文部科学省自ら言ったわけです。その中のいくつかの対策として、適応指導教室に行かなくても、自宅で学習ができるように、例えばテレビ会議システムだとか、メール、チャット関係といったもので、指導者付きでできるということが書いてあります。そうすると、そういったシステムを作らないといけないという話にもなるわけです。</p> <p>もう一方で、ほとんど不登校だが中学校の卒業証書もらったという子が随分います。実質全然勉強していません。しかし、卒業してから勉強したくなる子がすごく多いのです。そういうことも含めて、今度の通知文には、卒業したとしても希望さえすれば、夜間学級、夜間中学に入って勉強ができるという項目が入ってしまいました。豊島区の場合は夜間中学がないわけですから、こういったものについてもどうするのでしょうか。私が今一番注目しているのは、自宅の方で学習することができるシステムというのは、豊島区ではどうお考えなのかお聞かせいただきたいです。</p>
<p>工藤委員長</p>	<p>ちょっと待ってください。今回の事業名称は「いじめ防止対策の推進」ということになっておりますので、不登校の件でもし議論するならば、改めて事業名称をもう一度立て直して、それで今の議論に入らなければいけないと私は思いましたので、細谷委員よろしいでしょうか。</p>
<p>細谷委員 工藤委員長 細谷委員</p>	<p>失礼いたしました。結構です。</p> <p>来年度それが出るかもしれませんが。</p> <p>不登校に関する資料があったものですから。</p>

<p>工藤委員長</p>	<p>そうですね、不登校に関する資料があったことは事実です。</p> <p>相互に、いじめと不登校というのは切り離せないというのがあるかもしれませんが、とりあえず視点はいじめに定めたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>福元委員、何かございますか。</p>
<p>福元委員</p>	<p>Hyper-QU の活用についてご検討いただければと思いますが、これを、子供たちの自己肯定感や学級生活の満足群を増やしていくための取り組みとして、例えば小学生の小さい内から、学校への帰属意識や小さいいじめ・喧嘩・トラブルの発生を防ぐために、これはいけない行動だということを経験させていく場、これを活用して活動することについて、今後ご検討いただけたらなと思いましたが、お願いいたします。</p>
<p>工藤委員長 佐藤指導課長</p>	<p>今の件について、何かお答えございますか。</p> <p>福元委員の仰るとおりでございますが、私たちがこの調査をして、私たちだけで終わりではなくて、子供たちがこれを見て、子供たち自身が、いじめを始めとした人間関係の中で自分たちがやってはいけないこと、または、こういうことをしていくと相手はいい思いになるのだということに気付けるような、そういう取り組みに繋がれるようにやっていきたいと思っております。もしかしたら、子供たちの自立やキャリア教育にも、繋げていかなければいけないことかなという認識は持っております。</p>
<p>工藤委員長</p>	<p>よろしいですか。</p> <p>事業名称の「いじめ防止対策の推進」、各委員から様々な意見が出ておりますので、また新たに加筆等加える文面等については分かりやすい文面にして、もう一度提出するような形になるかと思いますが、よろしくお願いいたします。</p>
<p>佐藤指導課長</p>	<p>承知いたしました。ありがとうございます。</p>
<p>工藤委員長</p>	<p>それでは次に、議事の第3、「小・中学校の移動教室について」について、田邊課長、説明よろしく願いいたします。</p>
<p>田邊学務課長</p>	<p>【資料3「小・中学校の移動教室について」について説明】</p>
<p>工藤委員長</p>	<p>田邊課長、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは各委員から、質問お願いいたします。福元委員、お願いいたします。</p>
<p>福元委員</p>	<p>2点ございます。まず1点目が、特別支援学級のお子さんが、小学校は3年生から6年生、中学校は全学年ということですが、毎年実施ということでしょうか。</p> <p>それから移動先について、私の子供がおりました時と移動先が変わっているの、その辺りの変化について伺いたいです。以前ですと、秩父移動教室が4年生、山中湖が5年生だったと思います。宿泊先が現在少しずつ変わっていると思いますが、その辺り学習内容の変化ですとか、子供たち、あるいは保護者の方からの変更に伴う意見等ありますでしょうか。</p>
<p>田邊学務課長</p>	<p>特別支援の学年については、毎年この学年で実施をしております。それから、移動教室の場所につきましては、ご指摘のとおり変更しているところ</p>

	<p>ろでございます。一番大きかったのは、東日本大震災です。そういった影響で、変更せざるを得ないという状況でございました。以前は、中学校で福島県猪苗代の方でスキー教室を行っておりましたが、変更せざるを得ませんでした。また、中学校2年生では、尾瀬だったのですが、一度立科に変更しております。小学校の6年生については、日光だったのを立科に変えて、また平成29年度にまた日光に復活したということでございます。移動先変更により、各学年で玉突きの移動先変更が過去にございました。</p>
工藤委員長	<p>福元委員、よろしいですか。</p>
福元委員	<p>変更があったことに伴って、学習内容が学年によって少し変わってきた部分があったことがありまして、いろいろその当時にも保護者の意見があったかと思いますが、見直し等あって変更されたことについて、何かご意見ですとか変更してきたことの効果とかそういったことがあったかというところを、質問させていただきました。</p>
田邊学務課長	<p>日光から立科に変更した時について、日光はいろいろな歴史的な名所があって、教科書に出てくるような内容の名所があったわけですが、反対する超えもありましたが、放射能をご心配される方もいらっしゃるということで、変更したわけでございます。日光に戻して欲しいという声があって、平成29年度から日光に戻したという経過がございます。また、立科については、宿泊先が限られているため、ホテルではなくペンションを利用しながら行っております。ペンションのオーナーと触れ合ったり、少数で宿泊したり、そういった社会的な関係作りの勉強もできるというところで、また立科の自然も豊かであるので、魅力的な場所になったと考えてございます。</p> <p>中学校については、福島県猪苗代の四季の里でスキー教室を行っておりましたが、場所が遠くて、東北道を使って行くのですが渋滞してしまうと5時間以上かかってしまうような所でございます。スキー教室については、立科のスキー場に変更しました。立科のスキー場は晴天率も高く、またスキー場にスノーボーダーもいないので、安心して滑れるということもあり、スキー教室の場所に変えています。</p>
工藤委員長	<p>それでは、細谷委員よろしくお願いいいたします。</p>
細谷委員	<p>小学校4年生の山中湖移動教室が今年度で終わりということでしょうか。</p>
田邊学務課長	<p>小学校4年生の山中湖移動教室につきましては、来年度オリンピック・パラリンピックの関係があり、小学校5年生が夏休みに立科に行っておりまして、小学校5年生の宿泊行事をなくすわけにもいかないの、5年生の立科の移動教室を秋の方にずらすと、小学校4年生が秋に移動教室を実施しているの、中々同時に実施するのは難しいということで、来年度に限って、小学校4年生は休止ということでございます。また再来年度になれば復活をしようと考えております。</p>
細谷委員	<p>そうしますと、来年度に限って4年生だけ、ないということですね。</p>

田邊学務課長	説明不足で申し訳ございません。宿泊行事はなくなるのですが、代わりに日帰りの校外学習の行事を実施するということでございまして、東京の中で自然豊かな所で、日帰りで帰ってこられる高尾山の方で進めているところでございます。
細谷委員	分かりました。 もう一つ教えていただきたいのですが、小学校5年生の林間学校、中学校2年生の移動教室、これらは例えば農業体験等の体験活動はやっているのでしょうか。
田邊学務課長	現在中学校2年生については、1校が水上に行っておりまして、水上で農業体験を実施しております。また、来年度、尾瀬に行っている7校の内2校が場所を変えて、安曇野の農業体験を実施できる場所で試行的に農業体験を実施しようということで進めております。
細谷委員	大変よく分かりました。農業体験というのは、農家の方々との出会いやいろいろな体験ができるため、教育効果が非常に高い活動ですので、ぜひ進めていただきたいです。それから、宿泊施設の競争が激しいというお話でしたが、農業体験の時に農家に泊まるわけではないのでしょうか。
田邊学務課長	水上や安曇野では、農家に泊まっております。
細谷委員	そうすると、宿泊施設が足りないということはあるのでしょうか。
田邊学務課長	実は日光に戻る時に、非常に日光の宿泊場所が限られていて、苦慮したことがあります。それから尾瀬については、大人数が泊まれるような施設が本当に限られており、そういった宿泊施設の関係もあって、7校で実施している尾瀬から分散させようと、実際に水上に行っている学校は農業体験ができて良いということもありましたので、安曇野で農業体験の実施を進めております。ただ、水上も全ての学校を受け入れられる施設がないということもあり、宿泊場所も考えながら場所を決めているような状況でございます。
細谷委員	私は校長時代に、農家の家に分散して一泊の農業体験をやりました。村毎やっているのですが、そういう形で、比較的宿泊施設に苦労しないで済んだということがありました。その辺はあの頃とまた随分需要度が違うのかもしれませんが、ただ、先ほども申しましたが、ぜひ農業体験、農家の方々との触れ合いというのは大事にしていだければと思います。以上です。
工藤委員長	細谷委員、ありがとうございました。 では私の方から何点かお願いいたします。まず、事業費の件でございますけれども、予算建てがそのような概算が出ておりますが、やはり決算が相当違ってきています。この差異はなぜ発生したのか教えてください。
田邊学務課長	契約落差でございます。
工藤委員長	契約落差というのは、バスの契約ということですか。
田邊学務課長	はい、バスの契約の落差でございます。2校については、宿泊先も合わせて契約ということもあり、バスだけではないという部分もあります。
工藤委員長	そうしますと、当初の金額を区で見積もったものと、相見積もりを取っ

<p>田邊学務課長 工藤委員長</p>	<p>てこういう落差が出るのだらうと思いますが、相見積もりは何社くらいから取るのですか。</p> <p>相見積もりは3社からです。</p>
<p>田邊学務課長</p>	<p>私も現場にいる頃、やはり良いバスが回ってきたねという時と、そうでないバスが回ってきたという時の落差があったことを記憶に新しいのですが、何台くらいのバスを豊島区は都合しないといけなのですか。バス全体の数です。</p>
<p>田邊学務課長 工藤委員長</p>	<p>例えば山中湖ですと、全クラス数は50あるので、1クラス1台と考えると50台ですし、立科も50台、全部で言うと概算ですが250台近くなると思います。</p> <p>そのようなバスの手配というのは、大変至難の業だらうと、1社では恐らく用意することはできないと、有名なバス会社から始まって様々なバスを集めるということになろうかと思えます。そういう形での予算の減額が出てきたということだと理解しますが、これからも努めて、やはり金額はしっかり相見積もりを取って正常な形の中でより良いバスを提供できるようにしていただけたらと思えます。</p> <p>それから2点目は、交通費は、要するにバスということで、全額公費ということで教育委員会が持っているわけですが、宿泊料の一部を公費負担ということですよ。これは、パーセンテージからしたら何%を持っているのですか。一部といっても見えない部分があるので。</p>
<p>田邊学務課長 工藤委員長</p>	<p>資料には一部と書いてありますが、実際には半額を補助しております。</p> <p>50%ですね。ここに50%支給と、公費負担ということは書けないのでしょうか。</p>
<p>田邊学務課長 工藤委員長</p>	<p>大丈夫かと思えます。</p> <p>このぐらい教育委員会が努力しているのだということを、一部出していると書くより50%出していると書く方が、重みがあると思えます。やはり学校側としてもとても重要なところだと思うので、ぜひその辺は明確にしていっての方が、よろしいかと私は思います。ご検討ください。</p> <p>最後の質問になります。達成度というのは、参加率のパーセンテージだと思いますが、当然学務課はどちらかと言うとハード面を押さえていくわけです。実際、今度のビジョンの中でも、重点ポイントとして移動教室のことが書かれており、結構心の問題を重視していると思えます。私はこれを読んでいて、すごいなと思いました。ただ連れて行く、ただ自然の中に放り込む、という風な書き方ではなく、豊島区はこのように自然教室を活用しながら子供の豊かな心の育成と言っているわけですね。そうしますと、指導課の方の問題になるのかもしれませんが、こういう移動教室に参加した満足度というのを、子供たち若しくは親等の実態を調査したことがあるのかどうかということをお聞きしたいです。</p>
<p>田邊学務課長</p>	<p>実は、本日の委員会に臨むにあたって、何校か聞いてみたのですが、学務課の方で実施していないものですから、実際に移動教室でお世話になった宿泊施設に子供たちがお手紙を出すということはやっていると聞き</p>

<p>工藤委員長 佐藤指導課長</p>	<p>ました。実査に調査をしたりアンケートを取ったりは、聞いた学校の中では実施していないということでした。</p> <p>では指導課長、補足ありますか。</p> <p>学校評価でこの辺りのデータを取っていかないといけないのをおもっているところでございます。本区の中で、教育ビジョンを立てた時に、正確に教育ビジョンが学校の中でどれくらい進んでいるのかというのを、学校評価の共通項目として、数的なもので全ては語れませんが、データを取っていかねばいけないと考えているところです。今年度は間に合いませんでしたが、来年度に向けて、そもそも学校評価の項目を新しく作っていかねばいけません。宿泊行事だけではなく、いじめのことも然り、学校の指標を測るものが共通でないの、やっていかねばいけないと、教育ビジョンを作っていく上で反省点として持っているところでございます。</p>
<p>工藤委員長</p>	<p>担当課ということで、二重丸が付いているのは学務課で、その後に指導課が入っていますが、やはり教育委員会は一体でワンチームという意味合いはこれからもっと求められるかと思しますので、その辺もご検討いただきながら、良い方向に向いてくればと思います。よろしくお願いたします。</p>
<p>山本係長</p>	<p>それでは各委員、この件について他にございますか。</p> <p>補足説明をさせていただきます。先ほど福元委員からご質問がありました、移動教室が、学年が変わることによって、内容が変化するのかということについて、確かにそのとおりでございます。立科の移動教室では、小学校6年生が行っていた時は中山道の宿場町の海野宿という所に行っています。そこは「うだつ」があって、「うだつがあがらない」の語源になっている所で、勉強になる場所でした。それが、学年が小学校5年生に下がったことによって、6年生だと社会科で江戸時代を勉強した後に行けるのですが、5年生ですとまだ古代や平安時代ですので早すぎるということで、指導課の統括指導主事、指導主事、教育長とお話して、海野宿を止めました。そういった変更、内容の精査を行っております。</p>
<p>工藤委員長</p>	<p>福元委員、よろしいですか。ご説明ありがとうございました。</p> <p>それでは、次の議事に進みたいと思います。議事の第4、「子どもスキップ事業」について、高桑課長、説明をお願いいたします。</p>
<p>高桑放課後対策課長 工藤委員長</p>	<p>【資料4「子どもスキップ事業」について説明】</p> <p>どうもありがとうございました。大変、いろいろな課題がある部分ではありますが、評価委員会としていろいろご意見を頂戴したいと思います。</p>
<p>福元委員</p>	<p>福元委員から、よろしいですか。</p> <p>利用者推移を見せていただきまして、圧倒的に学童クラブの登録人数が増えてきているというのは、やはり豊島区は保育園の待機児童ゼロというのが、就労の関係等でお子さんたちの利用が増えてきているのだと思います。学校全体としても、在学のお子さんたちが増えてきていて、そ</p>

こちらの教室のスペースの難しさの関係ということも以前の課題の中で伺っておりますので、教育委員会の中に子どもスキップ事業が来た中で、限られたスペースを上手に活用している事業だなどと思う一方で、今まで中学校の方から、例えばランチルームとか、あるいは少人数教室とか、そういった形で使ってきた教室が、お子さんの増加に伴って一般の教室にしていかなくてはいけないというような部分から、サードスペースの用意も時間帯等の問題から中々難しいのだろうと、こちらを拝見しながら思っております。

それで、一つ目は、教育ビジョン2019の中にも正規職員の増加を目標ということで挙げられていて、子どもスキップ事業は、豊島区は公設公営の所というところで、そちらの増加というところが職員の確保に繋がっていく一つなのかなと思いますのと、本当にタイムシェアリングの難しさの中で、上手く組み合わせていかないといけないというところで、ここは地域としてもよく分かりますのは、学校開放運営の事業で、例えば、教室を貸し出しという部分もあろうかと思えます。その時間が、子どもスキップの時間帯の中で、地域性があると思いますが、その辺りのタイムシェアリングが上手くいくような調整の仕方はどのようになさっているのかという部分と、それから、一般利用で一時的にたくさん使う日というのは学校の行事ですとか授業等で、この日はたくさん利用があるという日があると思えますので、その辺りの学校との連携の仕方について、限られたスペース、限られた職員という中で、例えば、学校の授業が4時間授業、あるいは学校の行事等、保護者会ですとか、そういったところでの、子どもスキップのニーズが特に高まる日についての連絡調整等についてお聞かせ願いたいと思えます。

高桑放課後対策課長

まず、学校開放との関係です。子どもスキップは、子供一人当たり平米数1.65は狭いですから、校庭や体育館等を使って遊ぶということを重視しております。ところが開放で、学校がいわゆる地域の団体に16時半頃から貸してしまうと、スキップが体育館を使えない等になってしまうので、地域に貸す場合はできたら18時以降にしてもらいたいということを学校にお話しはしております。ただ、やはり昔から使っている団体等もございますので、突然、スキップで使うために18時以前の学校開放は一切禁止とまでやってしまうと地域と上手くいかないし、学校もまた地域の中にある施設なので、そういった調整は徐々にやっていただきたいということを校長会等でお話しはしたところでございます。

それから、保護者会があつて、全学年4時間目で終わりという時は、すごい状態になります。皆一斉にスキップの方に来てしまうものですから、その場合に、どこか違うお部屋を使わせていただくだとかは、所長と学校の管理職との間で連携を取ってやっていただいておりますが、平成29年度に子どもスキップ事業が教育委員会に移管になって、その辺の連携は以前に比べてかなり良くなったという風に、前からいる所長も言っております。前はあまり貸してくれなかったというところもあったようで

<p>工藤委員長 細谷委員</p>	<p>すが、前に教育長の方から、いろいろな機会にスキップに協力するようにと校長会等で言っていたということもありまして、徐々に、大分連携は良くなって上手くいっていると思います。それにしても、混んでいるというのは事実ですので、そういう場合は校庭に移動させるのですが、雨が降っている時はそれもできない等、中々大変な状況にある場合もありますが、そこは学校といろいろ協力しているところでございます。</p> <p>ありがとうございます。細谷委員、何かありますか。</p>
<p>高桑放課後対策課長 細谷委員</p>	<p>先ほど、欠員補充という課題で、これはどこでも非常に苦労されているようなのですが、非常勤の方の対象年齢だとか住んでいる地域だとか、そういった条件があるのでしょうか。</p> <p>年齢では、18歳以上であれば特に制限はしておりません。ただ、あまりに高齢の場合は、面接等行い選考しますので、その段階で判断はさせていただきます。年齢だけを条件にするのは、労働法上問題があるというお話もあるので、年齢の制限はしておりません。個別に判断することとさせていただきます。それから、居住の地域については、基本的に働く所の学校区になっている所に住んでいる人は、そのスキップでは遠慮していただき、違う所で働いていただくようにしております。いろいろプライバシーに関わること、ご家庭のこととか、そういう事情を知りうる立場になりますので、その辺は気を使っているところです。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>高桑放課後対策課長 細谷委員</p>	<p>もう一つ、子供たちを預かる形で、そして、先ほどダンス等の話が出ましたが、指導する特殊技能を持っている方というのは、区としては欲しいのでしょうか。</p> <p>予算が違うため、今回の資料には載せておりませんが、「放課後子ども教室」というのを各スキップで実施しておりまして、ダンスや英会話、いろいろなことをやっていただくのですが、例えば海外出張が多い企業に勤めていらっしゃる方に英会話をやっていただくとか、地域の方の得意分野でやっていただくという形を取っておりますので、いわゆる職員で何か得意なものがないと、というわけではないので、それほど重視はしておりません。</p>
<p>細谷委員 工藤委員長 高桑放課後対策課長</p>	<p>分かりました。ありがとうございます。</p> <p>よろしいですか。それでは私の方から何点かお願いいたします。</p> <p>課という名称の中で、「対策」と付く名称は区の中でどのような名称があるのでしょうか。急な質問で大変申し訳ございませんが、対策が付いている課ということなので、何かしら課題が山積して、それに対してしっかりビジョンを持ちながら上手く運営しようという風な意味合いが籠っているのではないかなと、そういう意味合いの対策と感じます。</p> <p>平成29年度に新しく区長部局から教育委員会に移管してきたわけですが、子どもスキップと学童クラブの相違というのは端的に言うとは何ですか。</p> <p>学童と一般利用の差だと思うのですが、子どもスキップという施設の</p>

<p>工藤委員長 高桑放課後対策課長</p>	<p>中で学童クラブの授業もやっており、一般利用の授業もやっている、という形です。なので、学童クラブと一般利用の違いについて、というご説明でよろしいでしょうか。</p>
<p>工藤委員長 高桑放課後対策課長</p>	<p>はい。</p> <p>学童クラブの方は先ほど申し上げたとおり、昼間お家に帰っても親御さんがいないということで、その間預かるということで、保育園の小学生版という意味合いがあります。生活全般について、いろいろ支援するというので、まず利用料をいただきます。また、延長利用がありまして、普段子どもスキップは、9時から18時までですけれども、19時までの延長利用が学童クラブの場合使えますし、また9時前利用ということで、8時15分から、土曜日や夏休み等で9時より前から使えるということがあります。さらに、入退室管理システムというのを導入しておりまして、学童クラブに来た際に保護者にメールが行って、帰る時には出たことが分かるような、そういった安心安全のための制度も学童クラブだけやっているような状況です。帰りの時間について、学童クラブの場合は何時に帰りますということを連絡帳でやりとりしておりますので、それに合わせて帰らせるということをしています。一般利用の人は極端な話、勝手に来て勝手に帰るわけですが、帰る時間の管理を学童クラブでは行っております。また、一般利用の児童も一緒ですが、体調の管理はきちんと行っております。その辺の違いがございます。</p>
<p>工藤委員長 高桑放課後対策課長</p>	<p>将来的にはこの事業を合体して、何か新しい事業建ての形に移行するという考えはありますか。要するに、学童とスキップを上手く融合させたようなものは、考えられるのでしょうか。難しかったら難しいで結構です。</p>
<p>高桑放課後対策課長</p>	<p>委員長の仰ることとピントがずれたら申し訳ないのですが、今自体が既に融合していると言いますか、子どもスキップの中で学童と一般利用を行っておりますし、両方の子供と一緒に遊んだりもしていますので、融合と言えば融合ではないかと思えます。</p>
<p>工藤委員長</p>	<p>実はですね、達成度のところに、平成30年度535,760人、平成29年度は541,511人、この差異がマイナスの5,751人です。ただし、内訳の中で、学童の利用を調べてみると、平成30年度の方が12,521人増えているということです。ということは、学童の方が親にとって有益だという風を感じて、少々のお金を払っても、こちらの方で面倒を見てもらった方が良いという係数が出ているのではないかという風に思うのです。これは、今後、やはり続くということになった時には、当然、人事の経費が出てくるはずですが、そうすると、多分学務課の問題かもしれませんが、出生率から考えて、この豊島区はどのくらいの子供が今後増えていくのか、見通しというのは持っていますか。</p>
<p>田邊学務課長</p>	<p>子供が増えていくという数字、バックデータはもちろん持っております。今後5年くらいは増えていく見込みではあります。</p>
<p>工藤委員長</p>	<p>そうすると、放課後対策課長の方は、この数字は明らかにデータとして</p>

	<p>分かっているわけですから、今後どうなっていくかということは、当然いろいろなことを考えていかなければならないということになりますよね。その一つとして、今度は人員の配置ができないというような大きな今の課題に対しては、今後もう少し抜本的にどういう風にしたら人材が集まるのか、そういうことを討議はなさっているのですか。</p>
高桑放課後対策課長	<p>人材確保につきましては、先ほど少しご説明しましたが、来年度に向けての制度改正に伴って、少しは増えるのかなと思っております。</p>
兒玉教育部長	<p>やはり約5年は増えていき、その後はまた少子化傾向になっていくだろうと言われておりますが、やはり増え続けているというのは確かですので、非常勤、来年度からは会計年度任用職員というものになって、処遇は少し上がるのですが、それだけでは子供の安全確保は厳しいという認識はありまして、やはり正規職員、今各スキップ1人なのですが、それを少なくとも2名体制にしようと考えておりまして、今豊島区に児童相談所の設置ですとか、福祉職を採用していこうという方向にありますので、その職員を子どもスキップの方に配置して、保育園ですとかいろいろな福祉施設がありますので、そういう所をローテーションしながら、なるべく職員を有効活用しようということで、今まさに委員長仰るように、児童増に対して、正規職員の人員体制の強化を今後していきたいという風に考えております。</p>
工藤委員長	<p>兒玉部長、ありがとうございます。力強いご発言をいただいて、区民も安心するのかなという風に思います。</p>
高桑放課後対策課長	<p>あと一つ、要するに、非常勤の中には外国籍の方はいらっしゃいますか。</p>
高桑放課後対策課長	<p>元々中国の方で、日本に帰化した方がいらっしゃいますが、外国籍の方は確かいらっしゃらないかと思えます。ただ、制度上、外国籍の方も採用できるような制度にはなっております。</p>
工藤委員長	<p>そうですか。介護等では外国籍の方を多く活用と、人材の確保の方法としてかなりやられていると思えますので、こういう場面でもやはり有能な外国籍の人材がいれば、豊島区は特に外国籍の方の割合が大きいですから、そういう意味ではそちらの方にも情報を流しながら、というのも人材確保の一つになるかと思い、発言させていただきました。</p>
副島庶務課長	<p>他に委員の皆様方、何かございますか。よろしいですか。それでは、大変ありがとうございます。</p> <p>本日の議事は終了しました。事務局から連絡事項があればお願いします。</p>
副島庶務課長	<p>次回日程について、ご案内いたします。今回は、1月30日(木)、午後1時30分からを予定しております。車で巣鴨北中学校へ向かいますので、1時30分に庁舎1階の車寄せの方にお集まりください。遅れる場合、また、現地に直接行くという場合には、予め庶務課の方にご連絡いただければと思います。詳細は、この後、通知を差し上げますので、そちらをご覧ください。よろしく願いいたします。以上でございます。</p>

工藤委員長	一つ質問してよろしいですか。もう一件、学校施設課の方の検討事項が当日に入っていたかと思いますが、それは巣鴨北中学校でやるのですか、それとも役所に戻ってやるのですか。
副島庶務課長	検討しましたが、そのまま巣鴨北中学校の方で検討していただきたいと思います。場所を借りてございます。
工藤委員長	そうですか、了解しました。 それでは今日は新教育長を迎えて第2回目の点検・評価委員会でございます。以上をもちまして、第2回教育に関する事務の点検・評価委員会を閉会いたします。お疲れ様でございました。
全員	ありがとうございました。 ———— 閉 会 ————

提出された資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1. ICT を活用した学習活動の推進（補足）……………（資料1） 2. 事業分析シート（いじめ防止対策の推進）……………（資料2） 3. 事業分析シート（小・中学校の移動教室について）…（資料3） 4. 事業分析シート（子どもスキップ事業）……………（資料4）
----------	--